

3 実態調査等の実施状況

(1) 大気、水域等の環境調査

ダイオキシン法に基づき、県では、県域の汚染の状況を把握するため、調査地点を定め大気、水質等の常時監視を行っています。土壌と地下水については、平成12～14年度の3年間で県域を網羅的に調査を行い、平成15～17年度の3年間は県域の廃棄物焼却施設等の発生源周辺において調査を実施しています。

また、県では、大気と水質及び底質については県域の詳細な実態把握のため、常時監視地点を補完する地点において、平成12～14年度、平成15～17年度のそれぞれ3年間で調査地域を変えながら環境実態調査を実施しています。

これらの調査結果は次のとおりです。

ア 大気調査結果

全ての地点で環境基準（年平均で0.6pg-TEQ/m³）に適合していました（表4）。（⇨12ページに地図を掲載）

表4 平成16年度大気調査結果（年4回測定の平均値）（単位：pg-TEQ/m³）

		地点数	平均（最低～最高）	環境基準超過地点数	備考
本 県	常時監視	20	0.058 (0.032～0.12)	なし	(図8)
	環境実態調査	7	0.048 (0.036～0.069)	なし	県中央部を調査(図8)
全国の調査結果		694	0.058 (0.0083～0.34)	なし	平成16年度一般環境
本県の過去の調査結果		222	0.024～3.3 ^{注)}		平成元～15年度

注) 平成元～11年度はCo-PCBを含みません。

【参考】平成元年度からの調査結果（各数値は調査結果の平均値）（単位：pg-TEQ/m³）

	元～2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
工業周辺地域	2.0	2.1	1.90	2.51	1.37	1.16	1.44	0.21	0.20	0.10	0.087	0.076	0.051	0.024
都市地域	1.5	1.3	2.22	2.45	0.36	0.49	0.57	～	～	～	～	～	～	～
バックグラウンド	0.42	0.05	0.48	0.23	0.13	0.15	0.10	3.3	0.54	0.53	0.24	0.35	0.31	0.096

（出典：県環境白書）

イ 水質調査結果

公共用水域の水質及び地下水ともに、全ての地点で環境基準（年平均で1pg-TEQ/L）に適合していました（表5）。（⇨14ページに地図を掲載）

表5 平成16年度水質調査結果（年1回測定）（単位：pg-TEQ/L）

		地点数	平均（最低～最高）	環境基準超過地点数	備考
本 県	河川	30	0.10 (0.024～0.67)	なし	11～12月に採取
	湖沼	5	0.073 (0.032～0.095)	なし	(図10)
	海域（相模湾）	1	0.026	なし	8月に採取(図10)
	地下水	8	0.069 (0.065～0.098)	なし	9月に採取(図12)
全国の調査結果		2,057	0.22 (0.0069～4.6)	43	平成16年度公共用水域
本県の過去の調査結果		378	nd～2.0 ^{注1, 2)}		平成元～15年度

注1) 平成元～11年度はCo-PCBを含みません。

注2) 平成14年度に相模原市内の地下水1地点で環境基準を超過しました。（⇨18ページ）

【参考】平成元年度からの調査結果（各数値は調査結果の平均値）（単位：pg-TEQ/L）

年 度	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
河川	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	0.29	0.16	0.29	0.19	0.11	0.10
湖沼	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	—	—	0.11	—	0.13	0.11	0.059	0.058
海域	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	—	—	—	0.17	0.089	0.070	0.047	0.041

（出典：県環境白書）

注) 平成9年度まで検出されていなかった（nd）のに10年度以降検出されているのは、分析機器の精度の向上により、低濃度のダイオキシン類を検出できるようになったためです。

ウ 底質調査結果

全ての地点で環境基準（年平均で150pg-TEQ/g、平成14年9月1日から適用）に適合していました（表6）。

表6 平成16年度底質調査結果（年1回測定）

（単位：pg-TEQ/g）

		地点数	平均（最低～最高）	環境基準超過地点数	備考
本 県	河 川	30	1.2 (0.094～8.3)	なし	11～12月に採取
	湖 沼	5	15 (2.5～34)	なし	
	海 域（相模湾）	1	8.3	なし	8月に採取
全 国 の 調 査 結 果		1,740	7.5 (0.050～1,300)	5	平成16年度公共用水域

エ 土壌調査結果

平成16年度は、県西部の発生源周辺において実施しました。全ての地点で環境基準（1,000pg-TEQ/g）に適合したほか、ダイオキシン法で追加的な調査が必要とされる基準（250pg-TEQ/g）も下回りました（表7）。（⇨16ページに地図を掲載）

表7 平成16年度土壌調査結果

（単位：pg-TEQ/g）

	地点数	平均（最低～最高）	環境基準超過地点数	備考
本 県 の 常 時 監 視	144	4.8 (0.0016～5)	なし	9～10月に採取（図13）
全 国 の 調 査 結 果	635	6.0 (0～250)	なし	平成16年度発生源周辺
本 県 の 過 去 の 調 査 結 果	251	0.0016～110 ^{注1)}		平成10～15年度 ^{注2)}

注1) 平成10～11年度はCo-PCBを含みません。

注2) 平成10～14年度は一般環境把握調査を実施しました。

[参考] 平成10年度からの調査結果

（単位：pg-TEQ/g）

10年	11年	12年	13年	14年	15年
0.087～8.6	0.037～5.5	0.0016～34	0.025～32	0.030～110	0.028～29

注) 平成10～14年度は一般環境把握調査を実施しました。

（出典：県環境白書）

オ 水生生物調査結果

水生生物には環境基準が定められていませんが、湖沼（芦ノ湖）で採取した魚類1検体で、環境庁（現環境省）が全国で実施した「平成11年度公共用水域等のダイオキシン類調査結果」の水生生物の調査結果の同魚種における濃度をわずかに上回りましたが、それ以外はそれぞれの魚種の全国調査結果の範囲内でした（表8）。

表8 平成16年度水生生物調査結果

（単位：pg-TEQ/g）

	地点数	平均（最低～最高）	備考
本 県 の 環 境 実 態 調 査	6	2.9 (0.44～9.6)	10月に採取
全 国 の 調 査 結 果	2,832	1.4 (0.032～33)	平成11年度
本 県 の 過 去 の 調 査 結 果	59	0.20～16 ^{注)}	

注) 平成11年度以前はCo-PCBを含まないものもあります。

[参考] 平成元年度からの調査結果（各数値は調査結果の平均値）

（単位：pg-TEQ/g）

年 度	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
平 均 値	3.4	0.77	0.37	0.58	0.37	0.52	0.54	0.20	0.55	2.6	1.8	3.8	4.1	0.74	1.7
検 体 数	2	3	3	4	6	6	5	3	4	1	2	5	5	5	5

（出典：県環境白書）